

学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校

バイオメタン研究班

バイオメタンを利用した新しい暮らしの提案

主に生徒の家庭の生ゴミを原料としてバイオメタンを生成し、消化液を用いた栽培をして、地域の資源をどのように活用し循環することが望ましいのかを地域の課題や魅力に照らして活動している。地域のイベントでも情報発信し、バイオメタンの普及・啓発を継続している。



静岡県立静岡高等学校①

生物部河川班

静岡市内の七河川におけるミクリ調査

静岡県内で準絶滅危惧種になっている植物の保全方法を考えるために、静岡市内の七河川において準絶滅危惧種「ミクリ」の株数と生息地の環境要因(水質調査)の記録を続け、集めた情報から株数の増減と環境要因の関係を考察している。侵略的外来生物についても調査している。



静岡県立静岡高等学校②

生物部麻機沼班

麻機沼における準絶滅危惧植物の調査

麻機沼における準絶滅危惧植物であるタコノアシとミゾコウジの調査を行い、生息数や分布域の変化を確認し、その原因や自分たちを取り巻く地域の環境の変化を探っている。県内の他の学校と情報を共有し、静岡大学のポスター発表会にも出場し情報発信をしている。



静岡県立浜松城北工業高等学校

環境部

地域の自然を守る「地球にやさしいエンジニア」を目指して

いろいろな地域での里山づくり・森づくり・自然保護・芝生化整備、「城北リサイクルステーション」、浜松城公園「葵の小道(双葉葵の植栽)」づくり、中田島砂丘・浜名湖・佐鳴湖クリーン作戦、浜松市防潮堤・植樹、WSの開催、「エコツアー」、ISO14001内部監査員の養成研修。



オイスカ高等学校

自然科学部

浜名湖生物資源マングローブガニの研究

これまでに、浜名湖水質浄化、在来種への生態系への影響、減災実験のために浜名湖干潟へマングローブ(メリルギ)を植栽してきた。その干潟に「幻のかニ」といわれるマングローブガニを見かけるようになり、新たな観光資源として生態調査や養殖技術の研究をはじめた。



中部

22団体



中部地区は、

環境省地方環境事務所の所管する

都道府県別で区分しています。

(中部地区＝富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重)

富山県立中央農業高等学校

小動物研究班

農業高校生が取り組む「とってもかわいいSDGs」プロジェクト

野生動物が集まる耕作放棄地等の対策「生息地管理」が必要とわり、耕作放棄地等3.3haヤギとブタの放牧に活用。地域の方々と市民団体を結成し、「ヤバーベルトビレッジ」を作った。サルとイノシシの「えさ場」を減少させ、畜産業として活用ができ、農地にも再生できた。



石川県立七尾東雲高等学校

能登ちゃべちゃべ隊

能登の里山(棚田)環境と景観保護活動から繋がる。地域活性化プロジェクト

七尾市の耕作放棄地棚田の復元活動、棚田の歴史的な水源整備、棚田米の商品価値利用を目的とするお米コンクールの入賞、棚田の環境破壊の原因となっている孟宗竹の有効活用として食品開発、竹を活用したハウスの制作と野菜栽培などを実施し、地域の活性化を推進している。



石川県立津幡高等学校①

園芸部

伝統と文化を紡ぐ養蚕復活プロジェクト

植樹用の桑の苗木を生産し、耕作放棄地に桑の木を植え、里地里山の原風景を再生し環境を保全している。また地域の活性化を念頭に置き、桑やシルクを活用した特産品の開発に取り組み、「桑の葉ほうじ茶」や「桑の葉パウダー」を製造。繭で作る「シルクコサージュ」も制作した。



石川県立津幡高等学校②

朱鷺サポート隊

トキ保護の普及・啓発活動

①石川県でのトキの分散飼育を後押しする、②トキの絶滅の原因や人と共生できる環境づくりを学習する、③トキ保護の啓発と里山の保全に取り組む。そして、これらの活動の成果として、石川の空にトキが舞い、トキと人が共に暮らせる「朱鷺の里」の再生を最終目的としている。

